

授業科目名	生理学Ⅱ	担当教員	教授 藤谷昌司 准教授 桑子賢一郎 (他 日程表に記載)
開講年次・学期	3年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義・実習	時間数/単位数	講義46時間・実習30時間
<b>授業概要</b>			
<p>生理学は生体機能の特性を明らかにし、その発現の機構の解明を目指す学問と位置づけられる。したがって、その対象として分子・細胞・生体レベルにわたる包括的な知識を得ることにより、臨床医学の基礎である正常生理機能の理解を深める。</p> <p>骨格筋、平滑筋、シナプス、脊髄については2年の1月からの講義で学習済みである。3年ではこれらを復習しながら、引き続き、感覚器、高位中枢、心臓、体液について、人体生理学の基礎の講義を行う。</p> <p>また、実習を通して、疑問点に対する科学的アプローチの方法を体験し、同時に特別講義において第一線の研究に触れることにより、基礎医学研究の楽しさや進め方を理解する。</p>			
<b>G I O (一般目標)</b>			
断片的な知識の暗記に留まることなく、生理学的な物の考え方をしっかり修得する。このことにより柔軟な思考能力を自己研鑽する習慣を養う。			
<b>S B O (行動目標)</b>			
<p>(1)興奮性細胞の基礎現象(静止膜電位・興奮・伝導・伝達)を概説できる。(復習)</p> <p>(2)感覚器官の生理機能を概説できる。</p> <p>(3)神経回路網による生体レベルでの情報統合と制御機能を概説できる。</p> <p>(4)心筋の活動と循環機能の制御を概説できる。</p> <p>(5)水電解質、酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。</p>			
<b>成績評価の方法</b>			
2年時の中間試験に加え、3年時に期末試験を実施する。実習はレポートで評価する。上記目標の到達度をその3者で総合的に評価する。実習の欠席は原則的に認めない。			
<b>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</b>			
<b>【参考図書】</b>			
小澤滯司・福田康一郎 監修	標準生理学 (第8版)	2014	医学書院
金澤一郎、宮下保司監修	カンデル神経科学	2014	メディカル・サイエンス・インターナショナル
大地陸男著	生理学テキスト (第8版)	2017	文光堂
倉智嘉久著	心筋細胞イオンチャンネル	2000	文光堂 (絶版)
日本生理学会教育委員会 監修	新訂・生理学実習書	2013	南江堂
Squire et al.:	Fundamental Neuroscience (4th ed)	2012	Academic Press
Katz:	Physiology of the Heart (5th ed)	2010	Lippincott Williams & Wilkins
Brodal:	The Central Nervous System (5th ed)	2016	Oxford University Press
Kandel et al.:	Principles of Neural Science (5th ed)	2012	McGraw-Hill Education
Koeppen & Stanton:	Berne & Levy Physiology, 7e	2017	Elsevier
<b>コア・カリとの関連</b>			
C-2 個体の構成と機能			
D-2 神経系			
D-5 循環器系			
D-8 腎・尿路系 (体液・電解質バランスを含む) (新カリキュラムでは第1生理学担当)			
D-13 眼・視覚系			
D-14 耳鼻・咽喉・口腔系			